

【高等学校用】

令和7年度学校評価 計画

学校名	佐賀県立武雄高等学校
-----	------------

1 前年度 評価結果の概要（簡潔に）	・学力の向上については、地域や国際社会の問題に対する関心が高まり、探究活動に対する意識が前向きに変化した。 ・業務改善・教職員の働き方改革については、目標達成ができなかった。より効果的な取り組みや学校行事の精選等だけでなく、稼業日以外の業務に対しても働き方の意識改革を推進していきたい。
-------------------------------	--

2 SAGAスクール・ミッション 学校教育目標	○ 西部地区唯一の県立中高一貫教育校として、6年間を見据えたカリキュラムに基づく教育実践を更に充実させる。 ○ 自治体との連携等による探究を中核とした学びを一層推進し、これからの時代を生き抜く資質・能力を涵養し、地域や国際社会が抱える課題の解決に対して主体的に行動できる人材を育成する。
--	--

3	アドミッション・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	グラデュエーション・ポリシー	4 本年度の重点目標	
	① 進路希望の達成に向け、基本的な生活習慣と学習習慣を身につけ、学校生活を大切に、真剣に学ぶ意欲を継続的に持とうとする生徒を求めます。 ② 質の高い文武両道の実現という本校の伝統を大切に、学業及び課外活動に対し主体的・積極的に取り組み、自己の向上を図ろうとする生徒を求めます。 ③ 社会や他者との関係を考えながら、目標を持って、自分の言葉で考え、自分の判断に責任を持ち、主体的に行動し、謙虚に内省しようとする人を求めます。	① 問題を見出し解決しようと試行錯誤する過程において自分の考えを形成し、協働しながら新しい意味や価値を創造する「探究」を中核とした6年間の教育活動を推進します。 ② 各教科や総合的な探究の時間、ロングホームルーム、様々な課外活動においてたくさんのTry & Errorを体験しながらしなやかに逞しい自己調整力・自己回復力を養います。 ③ 学問的な面白さに誘う学習過程、習得した知識を活用し考えさせる学習過程、「なぜ（Why）」と「どのように（How）」を大切にしたい学習過程を実践します。	① 「確かな知識」、「幅広い常識」、「温かな良識」、「鋭い見識」に基づいて自分なりのものの見方をもち行動できる力を育成します。 ② 高い志を持ち、先を見とおしながら主体的・自主的に何度でも挑戦し、その取組に対して自分の言葉で振り返ることができる力を育成します。 ③ 自分の個性や強みを生かすとともに、多様な考えを尊重しながら、他者と協働して課題解決に向けて取り組むことができる力を育成します。		① 生徒の自主性・主体性を育む教育活動を推進する。 ア 生徒主体の教育活動（学校行事・部活動等）を推進する。 イ 各教科等において生徒指導の3機能（自己決定の場・自己存在感・共感的な人間関係）を踏まえた授業を実践する。 ② 探究する力の育成を中核に据えた教育活動を推進する。 ア 総合的な探究の時間等を中心として探究の基本スタイルを習得させる。 イ 外部機関等と連携した取組への積極的参加を促し探究力を向上させる。 ③ 全教職員による学校課題の解決に向けた共通理解と共通実践を推進する。 ア 大入学試共通テストや個別大入学試験に対応できる授業力を磨くための授業研究を推進する。 イ 広報活動への意識を持ち、当事者として中学生に選ばれた学校教育活動に協働して取り組む。

5 重点取組内容・成果指標				中間評価		最終評価				主な担当者
(1)共通評価項目										
重点取組				中間評価		最終評価		学校関係者評価		
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	○生徒の探究力養成	○各教科や総合的な探究の時間等における探究活動に培う学力の伸長 ・地域や国際社会に解決したい問題があると思う生徒の割合…70%以上 ・探究活動の基本的なスタイルを理解していると思う生徒の割合…70%以上	・各教科の学習内容が現代社会とどのようにつながっているのか主体的に意識できるよう指導改善を図る。 ・探究活動に関する講義や実践をとおして探究の基本型(課題設定・情報収集・整理分析・まとめ表現)の理解と習得を図る。	・		・		・		教務・進路・企画研修
	○教職員の指導力向上	○生徒を主体とした適切な指導の実施状況 ・各教科等の授業において探究的な活動を仕組むことができた教員の割合…70%以上 ・総合的な探究の時間等において生徒を主体とした学びの支援ができた教員の割合…70%以上 ○教職員の授業力向上 ・学校生活・授業評価アンケートにおいて「授業の説明や、板書・電子黒板での説明は分かりやすい」と答える生徒の割合…80%以上	・各教科等の時間において定期的に探究的な活動を配置することにより基礎学力の必要性を実感させる。 ・総合的な探究の時間等において生徒の問題意識に寄り添いながらコーディネーターとして伴走的な支援を継続する。 ・教科会議や参観授業、校外研修などを行い、教職員の授業力向上を図る。	・		・				教務・進路・企画研修
●心の教育	●生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○ホームルーム活動や校外活動・校外活動への参加状況 ・校外活動に参加した1・2年の割合…50%以上 ・人権教育の全体教育に基づいて授業(人権・情報モラル)を行った教員の割合…80%以上	・ホームルーム活動の時間に具体的なテーマを設定してクラス討議を行う。 ・校内外の体験活動の意義を明確にし、関連する情報を提供して、生徒の参加意欲を引き出す。	・		・		・		教務・企画研修部
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○いじめ見逃しゼロに向けた取り組み ・いじめ防止等(いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事業対応等)について組織的対応ができていないと回答した教員の割合…80%以上	・学校行事や部活動において、生徒自身が集団と一体感を持てる取組を工夫し、共感的風土を醸成する。 ・「いじめはどの学級でも、どの生徒にも起こり得る」という視点を常にもち、日々の観察、学校生活アンケートの活用、面談等により、いじめの早期発見を心掛け、いじめが認知された時は組織として迅速かつ厳正に対応する。	・		・		・		生徒指導部
	○教育相談体制の充実	○SCの積極的活用等、教育相談の充実 ・年間30日以上の子席者数各学年5名以下 ○生徒が授業に行けるようになることを目標とした支援と配慮の充実	・SCの活用や教育相談、特別支援教育を通して職員間の共通理解を図り、生徒が円滑に学校生活を送ることができる方策を図る。 ・生徒の困り感に寄り添いながら教室に入れない生徒の支援を行う。	・		・				保健厚生部
	●健康・体づくり	●望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成	●健康により食事をしている生徒を90%以上に する。 ○健康診断を有効活用し、健康意識の向上を図る。特に歯科・眼科の受診率…35%以上	・健康診断後の治療勧告書や、保健だより、食育コーナー等の情報を発信する。 ・保健だより等とおして、食事・運動・睡眠は健康のために大切であるという意識の向上を図る。 ・部活動に加入させ、心身の健全な発達を促す。 ・学校全体で私物ゴミの持ち帰りに取り組み、環境保全の意識を育てる。	・		・		・	
●安全に関する資質・能力の育成	●安全に関する資質・能力の育成	●生徒の交通事故を0(ゼロ)にする ○規則の遵守、防犯、交通安全に関する講演会を実施し意識を高める。 ○加害としての交通事故件数0(ゼロ)	・日々のホームルームや集会等を利用して、道徳やマナー・交通安全・情報モラル・人権意識等について講演等を実施する。 ・高校生としてふさわしい身なりを意識づけ、生活上のルールの遵守に努める。 ・警察や県生徒指導連盟からの情報提供を参考にプリント・ポスター等で防犯意識を高める。	・		・				生徒指導部
	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ●年間20日の年次休暇の取、職員1人当たりの年次休暇の取得日数14日以上	・定時退勤日を週に1日、学校閉庁日を長期休業中に設定し、年休や休暇取得を奨励する。 ・部活動休養日の設定及び顧問が交代で部活動指導を行うことによって、時間外勤務の削減を図る。 ・IoTを活用し、業務の効率化に向けた体制づくりを行う。	・		・		・	
●特別支援教育の充実	○特別支援教育に関する教員の専門性と意識の向上	○特別支援教育に関する専門性が向上したと回答した教員90%以上	・特別支援教育に関する研修会を年に1回以上実施する。 ・ケース会議の開催、関係者間での情報共有の場を設ける。	・		・		・		保健厚生部
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目										
重点取組				中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
★唯一無二の誇り高き学校づくり	★実践的・体験的な活動の充実と県内外への情報発信	★自分の学校を中学生に勧めることができる生徒の割合を78%以上、教職員の割合を85%以上	・武雄市市民協働課のコーディネーターと連携し、まちづくり事業を進展させて地域との協働活動に取り組む、実践的な活動を通して地域課題の解決に貢献し、その成果を発表する。 ・上記の成果について、生徒・職員にアンケート調査を行い、改善を図る。	・		・		・		企画研修部
	○広報活動の充実と志願者の増加	○体験入学の参加者を募集定員の180%以上 ○第2回進路希望調査での志願倍率…1.1倍以上	・「武雄高校だより」を定期的に発行するなど、ホームページの充実を図る。	・		・		・		教務部
	◎志を高める教育	○社会や他者との関係を考えながら、目標を持って、自分の判断に責任を持ち、主体的に行ってきた生徒の割合…70%以上	・キャリア教育講演会、進路講演会、探究Ⅱの共同学習をとおして社会と自分との関係について考え、主体的な進路選択、将来設計を行う機会を設ける。	・		・		・		

6 総合評価・ 次年度への展望（簡潔に）	
-------------------------	--